

平成 27 年度 第 4 回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

アンケート調査結果

1 開催状況

(1)日 時 平成 28 年 3 月 5 日 (土) 14:00～16:00

(2)場 所 一関保健センター 1 階 多目的ホール

(3)目 的 利用者ごとに適切な在宅医療・介護サービスのコーディネートを行う介護支援専門員 (ケアマネジャー) は、「在宅医療・介護」の推進において重要な役目を果たす職種であるが、その業務内容などについて、市民の認知度は低いものとなっている。

研修会では、介護支援専門員 (ケアマネジャー) から、業務内容、事例、課題等の提供を行い、参加者と情報共有を図るとともに、医療職など多職種との今後の連携に役立つ。

(4)対象者 市民、医療関係者、高齢者施設従事者、介護サービス事業関係者、行政関係者等

(5)参加者 150 名

(6)プログラム

次 第

1 開 会 14:00

2 挨 拶

3 研 修

テーマ

「 家族の介護がやってきた ～ケアマネがお手伝いします～」

講 師

- ・ ケアプランセンター東山 所長 金野 真由美 氏
- ・ ケアセンターいこい 業務部 在宅支援事業所 所長 小野寺 和恵 氏

座 長

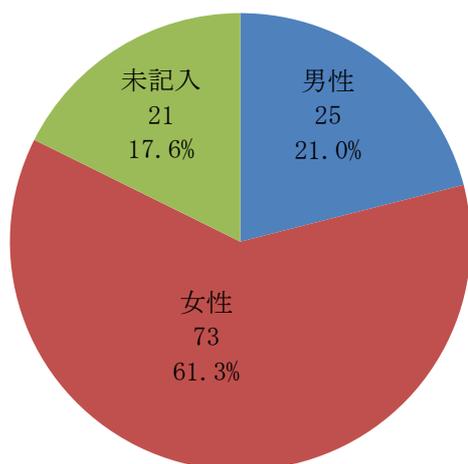
一関中央クリニック 院長 長澤 茂 先生 (一関市医療と介護の連携連絡会幹事長)

4 閉 会 16:00

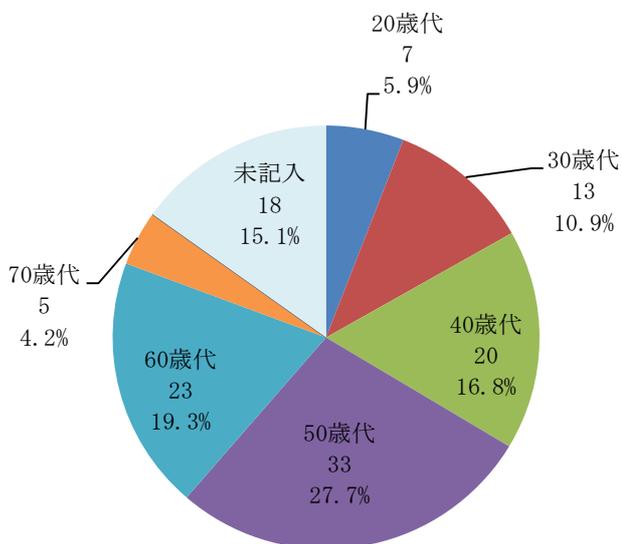
2 アンケートの集計結果

回答者数 119 人 (回収率 79.3%)

質問1 性別について

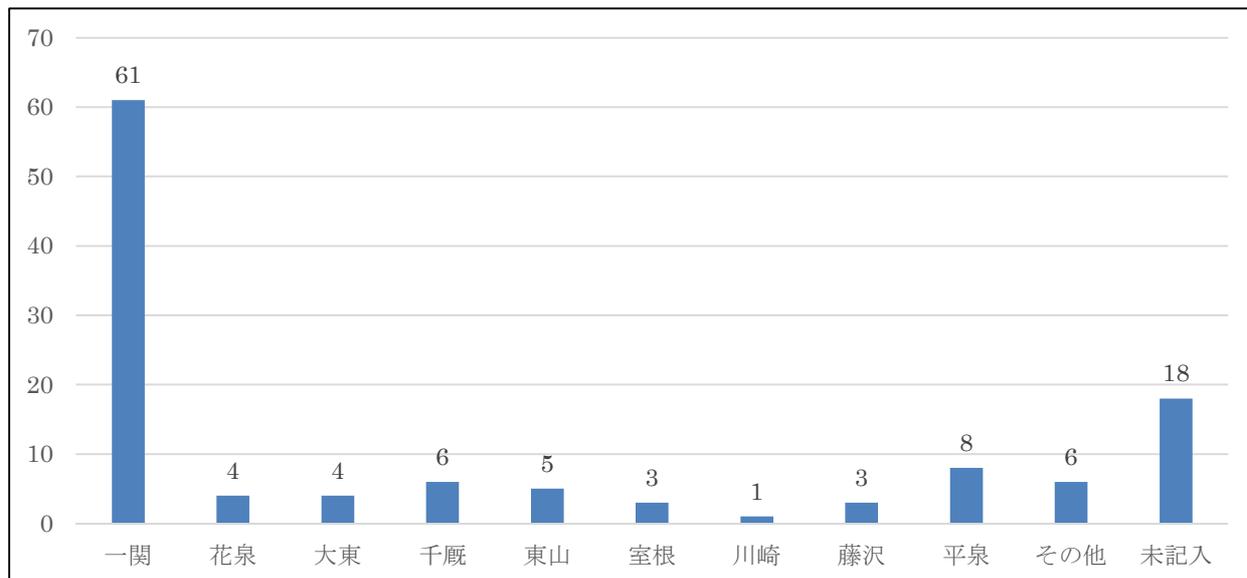


質問2 年齢について



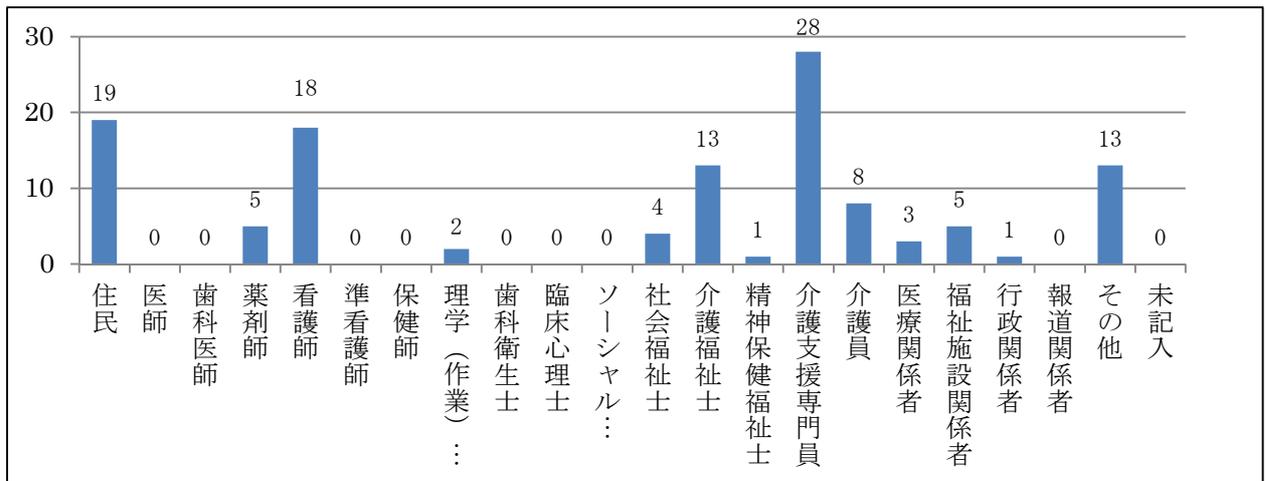
質問3 住所について

一 関	61人 (51.3%)	花 泉	4人 (3.4%)
大 東	4人 (3.4%)	千 厩	6人 (5.0%)
東 山	5人 (4.2%)	室 根	3人 (2.5%)
川 崎	1人 (0.8%)	藤 沢	3人 (2.5%)
平 泉	8人 (6.7%)	その他	6人 (5.0%)
未記入	18人 (15.1%)		

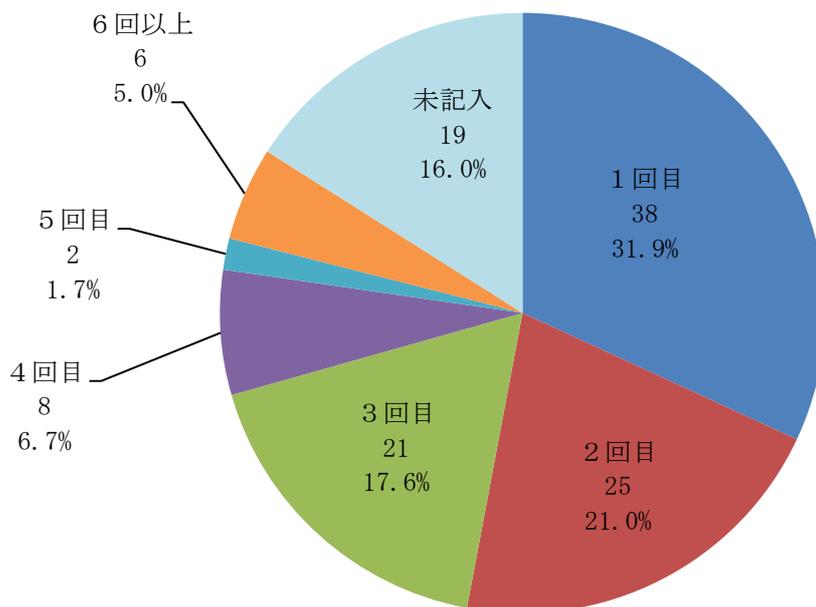


質問4 職業など（複数回答あり）

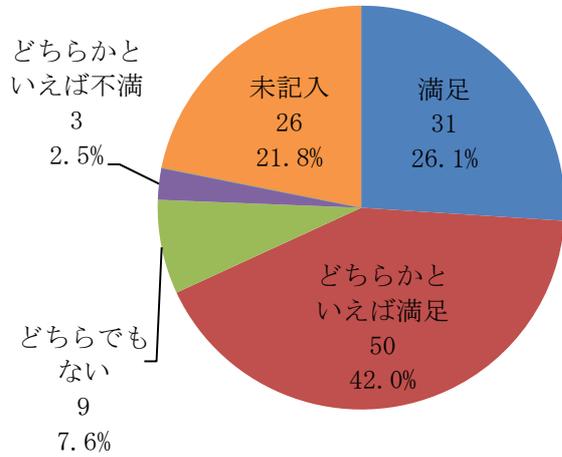
住民	19人 (15.8%)	医師	0人 (0.0%)
歯科医師	0人 (0.0%)	薬剤師	5人 (4.3%)
看護師	18人 (15.0%)	准看護師	0人 (0.0%)
保健師	0人 (0.0%)	理学（作業）療法士	2人 (1.7%)
歯科衛生士	0人 (0.0%)	臨床心理士	0人 (0.0%)
ソーシャルワーカー	0人 (0.0%)	社会福祉士	4人 (3.3%)
介護福祉士	13人 (10.8%)	精神保健福祉士	1人 (0.8%)
介護支援専門員	28人 (23.3%)	介護員	8人 (6.7%)
医療関係者	3人 (2.5%)	福祉施設関係者	5人 (4.2%)
行政関係者	1人 (0.8%)	報道関係者	0人 (0.0%)
その他	13人 (10.8%)	未記入	0人 (0.0%)



質問5 参加回数

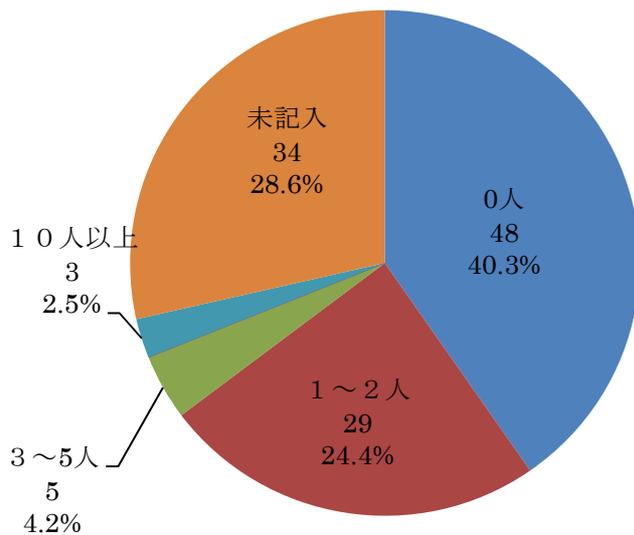


質問6 講演について



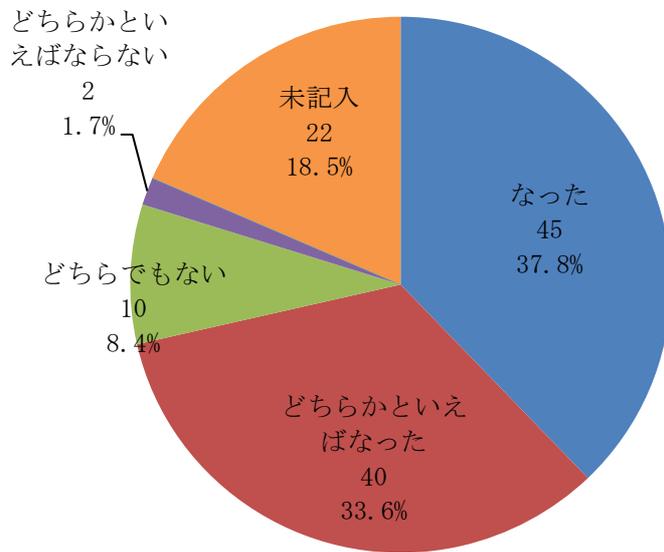
満足	31人 (26.1%)
どちらかといえば満足	50人 (42.0%)
どちらでもない	9人 (7.6%)
どちらかといえば不満	3人 (2.5%)
不満	0人 (0.0%)
未記入	26人 (21.8%)

質問7 本日の研修会で新たに顔見知りになった人数



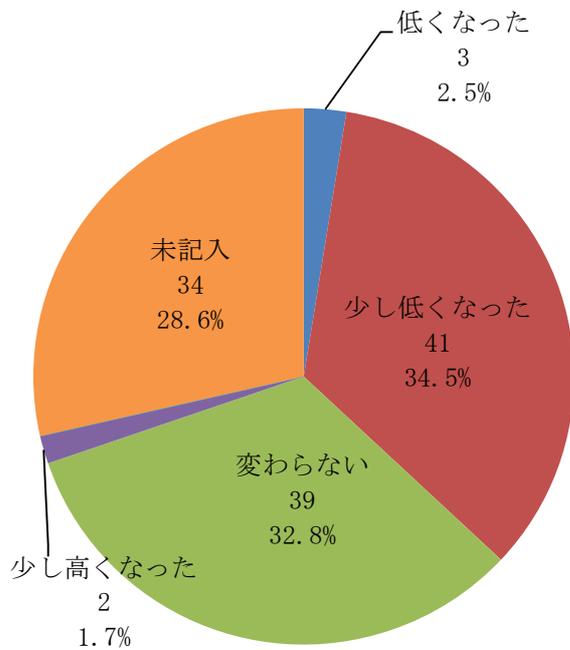
0人	48人 (40.3%)
1~2人	29人 (24.4%)
3~5人	5人 (4.2%)
6~10人	0人 (0.0%)
10人以上	3人 (2.5%)
未記入	34人 (28.6%)

質問8 「良い連携」を作る上でこの研修会は良い機会になったか



なった	45人 (37.8%)
どちらかといえばなった	40人 (33.6%)
どちらでもない	10人 (8.4%)
どちらかといえばならない	2人 (1.7%)
ならない	0人 (0.0%)
未記入	22人 (18.5%)

質問9 他職種との「壁」の高さは変化したか



低くなった	3人 (2.5%)
少し低くなった	41人 (34.5%)
変わらない	39人 (32.8%)
少し高くなった	2人 (1.7%)
ますます高くなった	0人 (0.0%)
未記入	34人 (28.6%)

10 医療と介護の連携に必要なことは何だと思いますか？

(市民)

- お互いの信用（気持ち）。
- 共存（本人・家族・ケアマネ・地域の方々の協力）。
- 今、現在関わっている方々より詳しくお話を伺うことも大事ですし、今後変化する介護ほかについて勉強していかなければと思います。
- 地域の協力。
- 今回は同じケアマネの方の発表から一般の人向けに分かりやすい説明が良かったと思います。事例をとりまぜて分かりやすかったと感じます。
- 医療と介護のそれぞれの現場がそれぞれの立場を尊重し、対等に意見交換ができる環境づくりが一層必要。
- 医療と介護に精通した専門職や資格を持った人間。

(薬剤師)

- おのおのの専門家の職能を知る。理解する。患者、家族に対する提案力。
- 顔の見える関係を構築していくことが必要と思います。求められるニーズを把握することも必要と思います。
- 服用時点が多くて飲んでなかったり、飲まなくても症状変わらないなどは薬を減らせます。訪問薬剤師を活用して下さい。

(看護師)

- 医療とケアマネジャーとの情報共有。共に学びあう関係、交流の場を持つ。
- 情報の共有、連絡をとる頻度、早めの退院調整。
- 「話し合い」カンファレンス（サービスを受ける方の状態変化を伝達しより良い自宅での生活ができる様に細かく話し合うこと。）
- 話しやすい関係、相談しやすい関係をつくる。
- 知識の取得。
- 顔の見える関係、チームの連携が大切ですね。
- 意見交換、情報の共有。
- 気軽に話が出来る機会（座談会のような会や事例検討会）。
- 高齢者世帯や独居の場合、特にケアマネジャーの情報が役立つことが多いので、連携を取りやすい環境をつくることも必要と思います。

(理学（作業）療法士)

- 地域ケア会議を積極的に行う。ディスカッションを行い、多職種の顔見知りを進める。

(社会福祉士)

- お互いの領域を理解すること。
- 事例検討会を増やしていただきたいと思います。

(介護福祉士)

- 以前より連携をとりやすくなったように感じております。
- 情報共有、知識、スキルアップ勉強会。
- 退院後介護サービスを初めて利用したい場合、何をどうしたらいいのか分からないで困っていると相談を受けることがあります。医療相談員がいない病院の場合、うまく介護サービスにつなげるようなシステムの見直しがあればと思います。
- 認知症は本当に難しいと思いますが、薬の使い方を厚生労働省では、「こう指導が出ているから、こういう薬の使い方しかできない」と説明されました。本人は納得できず、一度やめてしまったらもう薬は使えないと言われ何とか続けている。他医療との連携が取りづらい（専門病院に行ってくれと言われる）。
- 今日のような研修会に積極的に参加することが大事と感じました。今後も努力的な活動を希望します。
- 情報の共有、発信、吸い上げ。
- 介護の現場で働いていても、医療との関わりが少ないので、研修等を通じてもっとお互いを知ることが必要だと思います。
- 情報共有、顔の見える関係

（介護支援専門員）

- 必要な時にお互いに話し合うことだと思います。遠慮なく意見が言えるようになればいいと思います。
- MSWのいる医療機関などは、比較的スムーズに退院時の連携などしやすいのですが、MSWのいない病院などでは、どのくらいまで誰に相談してよいか。また、顔のみえる関係づくりがなかなか難しいと感じるときがあります。
- このような研修を継続的に行ってほしいと思います。
- 医師へのご意見です。処方薬が多い患者さんが増えています。内服の量を減らして欲しいです。
- 医師ではなく相談員の態度が悪いため相談しきれない。退院時カンファレンスでは、ケアマネの話聞かず、医師優先でなんのためにいるのか分からなかった。あんまりでした。
- 以前は、「医療>介護」の力関係があったように感じております。しかし、最近はイコールまでは行かないが、「≧」になってきたように感じます。このような研修を重ねることが大事なのかなと思います。
- 情報の共有、こまめな連絡。
- 医療現場ももっと在宅介護の現状を知ってください。
- 介護現場、ご利用者の状態をもう少しよく見てほしい。本人だけでなく施設側の意見を聴く時間が必要。ショートだけでは説明しきれない。
- 顔の見える関係づくりが大切だと思います。

（介護員）

- とても大事なことで医療も介護も密にして連携を取っていく。
- 話し合い、互助。
- 話し合い。
- 情報を互いに発信すること。

(医療関係者)

- 各職種との情報共有。
- お互いの立場や意見を尊重しあうことが大切だと思います。

(福祉施設関係者)

- 分かり合い。

(行政関係者)

- 市民との情報共有。

(その他)

- 行政主導で医療・介護連携のシステムを構築する。そのために、医療・介護を理解している他職種から意見を求めるのも必要と考えます。例えば、医療関係機関に携わっている業種。
- もっとお互いの情報共有をすべき。
- 情報共有（医療・介護現場での違い）。
- お互いのことを知る。自分の立場の「当たり前」を押し付けない。
- 住民にもっと浸透してほしい。
- お互いに見える連携が必要だと思います。それには壁がない関係を築いていくことと思います。

11 一関市で取り組んでほしいことや、医療と介護の連携連絡会等で希望する研修内容やテーマをお聞かせ下さい。

(市民)

- 介護のことですが、本人の性格、それに対しての家族の対応のことなど教えてほしいです。家族崩壊になりそう。共倒れになりそうです。義父・母が認知症のようですが、質問に対して答えると怒られます。
- 市民の皆さんにこれだけは知っていてほしいこと等々があれば研修を積み重ねる必要があるのでは。本日は貴重なお話ありがとうございました。
- 認知症の見守りの市民側の役割など。
- 介護者教室（家族の会）の成果を発表する機会。
- 傾聴のこと。
- 介護を行う家族の負担を軽減するための社会資源の利用について。

(薬剤師)

- 他職種から見たケーススタディは参考になる。患者の意志選択肢を増やせることが分かりたためになった。学生やボランティア等の参加にも取り組んでみてはどうでしょうか。
- いろいろな事例を教えてください。
- 今回のような研修会を続けて開催してほしい。薬の処方数が多いとの質問があったが、薬剤師に相談してください。
- 今回の研修で、地域の近所の方々との協力が重要ということを知ったが、自分是他県から一関に来たことがあり、地域の方との関係があまりなく不安な感じが強くなった。一関市として地域住民の交流を強めるようなイベントを高齢者になる前から何かあると親しい人が増えていくように思っています。

(看護師)

- 最後まで在宅で過ごせる様に。
- 看護師が訪問リハをしています。80歳～100歳の高齢の方が、筋力の低下予防と言うことで訪問していますが、その様な時にどの様なリハをと考えています。軽体操、リハの指導や研修会を多くと思います。

(社会福祉士)

- 高齢者の病気の詳しい説明。
- 今後も職種ごとテーマを持って研修会を続けていただきたいと思います。

(介護福祉士)

- 認知症になっても自宅で暮らしていけるような支援や地域との関わり。
- 総合的な診療を受けられるような場が欲しい。
- 身近なテーマで集まれるよう図ってください。
- ヘルパーによる痰吸引と医療行為について。

(介護支援専門員)

- ターミナル・看取りのケア、認知症の研修をもっともってほしいと思います。
- 訪問診療をしてくれる医療機関を増やして欲しいです。
- 本当に連携を取りたいのでしょうか？面倒くさそうにしか見えません。
- 今の仕事をする上で、地域の協力をどう求めて行ったらよいか悩んでいます。今日の研修も大変勉強になりましたが、さらに掘り下げて学んでみたいと思います。
- 見る側だけでなく、看られている側の話を伺ってみたい。

(介護員)

- 認知症の方との関わり。

(医療関係者)

- 介護認定の仕組みや実情を学びたい。

(その他)

- 介護関連業者（居宅・デイ・ショート・福祉用具など）での意見交換会。
- 地区との連携を密にするために、具体的な内容で誰もが分かる様なシステムづくりをテーマとしてほしいです。

自由記載

(市民)

- うちの恥を書くようですが、主人の義父・母と私たち夫婦・中二の娘と五人暮らしです。義父は義母に怒られると困るので、ただ話を聞いているようです。義父は婿養子です。家娘の義母は気持ちの優しい女の人の典型的のような人で料理、裁縫もできました。私はできません。ただ80歳くらいになった時に急に「面倒が嫌いになった。」と言ったと思ったら、あれよあれよと思ううちにわがまま（自分も）になり、いろんなことをしてもらおうと思うようになりました。娘も「おばあちゃん、認知症始まってきたんじゃない。いいなあー」と。学校の先生にも家庭で困っていることを話し、カウンセラーの先生にも相談。何か講演を聞いて良いヒントがないかと思って来た次第です。

(介護支援専門員)

- 退院し、ご自宅に戻ってからの本人はびっくりするほど変わります。ご自宅の力かなーと感じています。